

会 議 録

- 1 会 議 名 令和7年度博物館協議会
- 2 議 題 (1) 令和6年度の事業実績について
(2) 令和6年度の博物館評価について
(3) 令和7年度の事業計画について
(4) ミッションの策定について
- 3 開 催 日 時 令和7年9月2日(火) 13時30分～16時30分
- 4 開 催 場 所 北九州市立自然史・歴史博物館 1階 会議室
- 5 出席者氏名 [協議会委員]
阿部会長、杉山副会長、井上委員、緒方委員、鬼本委員、
佐野委員、立花委員、富田委員、針尾委員、舟橋委員
(欠席：須藤委員) ※委員 11 名のうち 10 名が出席
[事務局]
江藤普及課長、森自然史課長、日比野歴史課長 他
- 6 会 議 経 過 (発 言 内 容)
議題(1) 令和6年度の事業実績について
【事務局説明】
令和6年度の事業実績について、当該年度博物館年報に沿って報告した。
【委員意見○と事務局回答●】
○ 年報として分かりやすくまとめられている。質問等は特にない。

議題(2) 令和6年度の博物館評価について
【事務局説明】
評価項目は博物館法に準じて設定しているが、評価方法については来年度以降に見直しを行う予定である。その上で現状の評価方法での最終年度となる本年度評価においては指標の整理等をした上で実施した。
博物館(事務局)の自己評価については、事前に各委員に送付しているので説明を省略した。

【外部評価小委員会説明】

- 外部評価小委員会案についても事前に送付し、各委員が検討し、意見を提出している。特に評価シート「総括」について、委員の意見を中心に、外部評価小委員会委員長（協議会会長）より説明が行われた。

【委員意見○と事務局回答●】

1) 資料収集・保管活動について

- 現行の資料収集目標や評価基準が厳しすぎるのではないか。見直しを検討してはどうか。

2) 調査研究活動について

- 科研費等採択率の高低よりも業績数が評価上は重要ではないか。
- 業績においては、査読の有無等の定性評価を充実させる必要があると考えている。

3) 展示活動について

- 地方公立館でありながら他館への巡回展を行えた点を大いに評価する。
- これまで館の学芸員独自の研究内容を積極的に展示に盛り込むことを続けてきた。それが評価されるようになった結果ではないかと考える。
- 現行の来館者数の評価基準は厳しすぎるのではないか。
- 常設の展示解説パネル等について劣化や書体の不統一が目に残った。見やすい書体に統一する等観覧に集中できるよう改善を望む。
- 収蔵展示の実装を評価、今後も進めてほしい。

4) 教育普及活動について

- 少子化の影響を考えると、従来の「人数」による評価は妥当なのか。「団体数」のみを評価対象とすべきではないか。
- 少子化の影響は実感している。今後の評価の見直しの中で検討する。
- 参加者の理解度等、定性的指標が欠けている。たとえば出前授業や体験プログラムで学校側にアンケート等を実施していないのか。児童に配布されているタブレットを利用できないか。
- 定性的評価についても、評価の見直しの過程で検討していく。現在のところ、教員研修を除いてアンケートは実施していない。

5) 広報・情報発信活動について

- SNSについては児童や若年層に人気の媒体に注目することが必要。ハッシュタグの使い方等、若い世代の意見を参考にしてはどうか。

6) 市民との協働活動について

- シーダーの年齢構成について。20～40 歳代のシーダーが少ない状況を変える工夫はあるか。
- 現在、シーダーは 60～80 歳代が大多数。若年層に博物館そのものを知ってもらうことがまず必要と考えている。今年度歴史課では 20 代の

青年層を対象にモニタリングを実施し、ニーズやモチベーションについても調査を行った。

- 市民協働については、市民からの貢献、たとえばボランティア活動の成果についても評価や記載があってもよいのではないか。

7) 社会貢献活動について

- 他館への貸出資料が増加しているが、これにデジタルアーカイブ化推進の影響はあると考えるか。
- デジタルアーカイブ化を始めて日が浅く、効果という形ではまだ認識できていない。
- 数値だけでなく内容等、定性的評価も必要ではないか。
- 定性的評価を含める点は評価指標見直し課題の一つである。例えばレファレンス等の日常的に行っている活動も社会貢献として評価に加えるべきか等、検討が必要と考えている。

8) その他（北九州ミュージアムパーク創造事業）について

- 東田ミュージアムパークについては事業範囲を拡大する向きがあったが、採択事業終了に伴い、改めて当地区に特化した活動に期待したい。
- 評価する点は、補助金採択にかかる際の評価と同じか、それで妥当か。
- 補助金にかかる評価指標と同じ部分もあるが、それ以外の予算で実施した事業もある。

9) 博物館評価全般について

- 目標値が厳しすぎるのではないか。館の規模、マネジメントやリソース配分、中長期計画との関係、少子高齢化等社会の変化も考慮する等した上で評価基準を見直してはどうか。
- 市政変革等もあって館の活動自体も見直しを迫られており、それを踏まえた評価の見直しを進めていく必要があると考えている。

議題（3）令和 7 年度の事業計画について

【事務局説明】

令和 7 年度事業計画について、1 組織・運営体制、2 予算、3 展示会・イベント等（「東アジア友好博物館交流事業」を含む）、4 これまでの入館者数（7 月㍻）の順に説明を行った。

【委員意見○と事務局回答●】

- 学校利用促進に関して。館の事業計画は年度当初に小中学校に伝わっていれば小中学校の当該年度カリキュラムに反映しやすいようである。
- 年度当初の情報提供を心掛ける。

議題（4）ミッション策定について

【事務局説明】

事前資料に沿って趣旨、背景、策定方法、スケジュール等を説明し、協議会内に小委員会設置を依頼したい旨の説明を行った。その後、協議会会長より、小委員会は4名程度が適当であり、立候補がなければ会長・副会長で候補を提案する旨の言説があった。

【委員意見○と事務局回答●】

- 現状の協議会委員にはコミュニケーションや宣伝の専門家がない。それらを専門とする人物からもヒアリング等を実施するのがよいのではないか。
- ヒアリングも実施した上で、できるだけ多くの意見を受け止めた形で原案を作成することも考えたい。小委員会や各委員にはそれが成されているか外部から評価して頂きたい。
- 原案をいきなり評価する形は、小委員会・協議会側の責任が重すぎるのではないか。繰り返し相談を重ねて協議する必要がある、この場で軽々に引き受けられるものではないと感じた。
- 繰り返し協議を重ねる形を想定している。ミッションは一度決めて、その後まったく手を加えないという性質のものとは捉えておらず、以後も引き続きご相談をしたいと考えている。
- 5年毎にミッション見直しを行っている施設もあり、そういった他館の運用事例が参考になると考える。

議題（５）その他

【委員意見○と事務局回答●】

- 会議資料にある文化振興施策経営分析・事業分析報告書には、展示替えを希望する利用者の声が掲載されている。これまで学芸員の最新研究紹介という形でスポット展示を行ってきたようだが、それを今後も実施すること等が現実的な対応の一つと思う。
- 特別展、ぽけっとミュージアムの企画展等も行っているが、来館者からは常設展が主体と捉えられている傾向を感じており、頂いた意見等を参考に常設展部分の展示替え等検討していきたい。
- リソースが限られるなかで、ある程度期間を定めて注力箇所を変えていくような戦略は必要である。その観点からも、ミッションは柔軟性のあるものとし、例えば5年で見直すとしてその中で短期・中期・長期目標を設定する等、予め戦略的に決めておくのがよいかもしれない。

7 問い合わせ先

都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館（０９３－６８１－１０１１）